

(1) 図書、図書館の整備：◎

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	<p>A群：図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性</p> <p>：学生閲覧室の座席数、開館時間、図書館ネットワークの整備等、図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性</p> <p>：図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性</p> <p>：図書館の地域への開放の状況</p>

大学における教育・研究が十全に行えるよう、図書館施設と図書資料等の基本的整備を行う。また、「学びの場」及び「情報発信の場」として新しい図書館機能を付与するため、①学習施設・環境の整備、②情報発信環境の整備を目標としている。

a. 基本的整備－図書館施設

八王子キャンパスに本館的な機能を持つ八王子図書館と、上野毛キャンパスに分館的な上野毛図書館とがある。

イ. 八王子図書館

2006度まで使用していた旧図書館棟は、閉架書庫中心の設計で利用者に供するスペースは閲覧室を含め1,168㎡に過ぎなかった。書架についても10万冊程度の収容能力であった。老朽化と狭隘であることから、2007年度に新図書館棟を建築した。



(八王子新図書館)

新図書館棟は、総床面積5,639㎡、開架中心の設計としている。開架スペースは約2,500㎡と以前の2倍の広さになった。これにより、利用者が直接手にとって見られる開架図書冊数は昨年の約2万冊から3倍弱の5万5千冊に増加した。座席数は、館内350席、アーケードギャラリー75席である。

書架については、一般書であれば30万冊、しかし美術書には大型本が多いので実質的には25万冊程度の収容可能な書架を備えている。2階は大部分

Ⅱ一八. 図書館および図書・電子媒体等

が開架エリアである。大型本の多い美術書の書架は背が低く、その棚の上で本が読める工夫も施した。貴重書等のある閉架書庫への入庫資格は、2006年度までは建物の都合上、大学院生、教職員に限られ学部生は書庫公開の日のみの利用となっていたが、新図書館では学部生、大学院生、教職員が毎日利用出来る。

オープン以来学生の評価も高く、1日平均の入館者数は200名（旧図書館）から300名（新図書館）と1.5倍に増加している。

ロ. 上野毛図書館



（上野毛図書館）

上野毛図書館は総延床面積1,003㎡、収容可能冊数は6万3千冊である。閲覧室とAVブースが1階にあり、開架の書庫が1階と2階にある。地下1階の閉架書庫には特殊文庫が収蔵されている。1階入口左側にある新聞閲覧室は、図書館が閉館している時でも誰でも利用出来る。座席数は80席である。

八王子図書館ほどの図書資料等を有していないので、週に3回八王子図書館との往復便があり、八王子図書館の蔵書を取り寄せるサービスを行っている。

しかし、上野毛図書館の特色として1991年に閉校した同じ学校法人の多摩芸術学園からの蔵書を引き継いでいるため、映像や演劇関係の資料が豊富である。多摩芸術学園の教育内容と継続性を持つ映像演劇学科が上野毛キャンパスにあるため、学生の利用メリットは高いと言える。八王子図書館と比べ規模が小さいが、逆に学生との距離が近く、学生のニーズに応えた選書に努めている。

八王子図書館については2007年新図書館棟建築により、実現出来た圧倒的な収容能力の向上は高く評価出来る。また書籍の性質に併せ書架等に工夫を施す、開架図書冊数を3倍弱とするなど利用される図書館を実現したことも高く評価出来る。

b. 基本的整備－図書資料等

資料収集の基本方針は、図書館長を中心とする図書館運営委員会で決定される。その方針に基づいて資料収集と整備を行っている。現在の図書館基本方針は2006年10月に決定された。その概要をホームページ（「はじめに」）に掲載し、方針の周知を図っている。美術大学の図書館としての特性上、美術関係図書に重点を置いた収集をしており、海外主要美術館の展覧会カタログの収集に力を入れている。一般書籍については、公共図書館などと協定を結び手薄にならないよう補完している。以上の基本方針に基づき、次の図書資料等の整備を行っている。

授業等の前提となる基本図書から専門的研究資料までを含む蔵書構成となっている。所

Ⅱ一八. 図書館および図書・電子媒体等

蔵冊数は八王子図書館が13万冊、上野毛図書館が5万1千冊、学術雑誌（洋雑誌を含む）の総タイトルは八王子が1,580種類、上野毛が356種類である。図書・雑誌ともOPAC（オンラインによる目録検索システム）により検索・貸出予約が出来る。2007年度は、八王子キャンパス新図書館開館に合わせて、文庫本・新書8タイトル5,000冊を一括購入し、教養書の充実を図った。

また、特殊な現代美術研究の資料として、ご遺族から寄贈された瀧口修造文庫や、文部科学省の補助を受けて、その著書・主宰雑誌のほぼすべてを一括購入した北園克衛文庫などが上野毛図書館に収蔵されており、予約すれば外部の利用者も資料を利用出来る。

視聴覚資料については、八王子図書館はDVDを中心に1,300タイトルを開架に出して、利用者が直接取り出して視聴出来る。上野毛図書館はDVD、CD、LD、ビデオテープ、VHDなど、全部で1,392タイトルがある（2006年3月31日現在）。上野毛キャンパスには映像演劇学科があるため、研究室への映画フィルム（16mm）の貸出も行っている。

c. 学習施設・環境の整備

「学びの場」及び「情報発信の場」として新しい図書館機能については、主に八王子図書館で行っている。その目標を達成するものとして、①映像資料等に簡単にアクセス出来るAVブース等の設置、②知識を広げる環境の拡充、③ゼミなどに利用出来るラボラトリースペースの設置、④成果発表の場であるアーケードギャラリーの設置、⑤図書館職員のコンシェルジュ的役割の転換である。

この目標に沿って具体的に実施したものとしては、①美術やデザインの基礎となる映像資料に自由にアクセス出来るメディアバー等AV設備の増強、②-1リザーブドブックシェルフの充実、②-2ユーザごとのマイページ機能を備えた新しい図書館システムの導入である。マイページ機能により、学内・外から図書館のホームページにアクセスして、OPACで蔵書・雑誌の検索をした後、新着図書のチェック、貸出予約が自宅からでも可能である。受動型から提案型のシステム転換により、知的好奇心を広げる機会を飛躍的に高めることが可能となった。

身近な資料利用と知識を広げる環境の充実のなか、③ラボラトリースペースにより、図書館資料や画像をもとにゼミなどグループ・ディスカッション等を行える環境を整備した。この学習成果は④アーケードギャラリーにより行うことが可能である。

これら学習施設・環境を支える図書館職員については、次の対応により役割転換を図った。ICタグ方式の図書館管理システムを導入し、自動貸出装置などを設置した。これにより貸し出しなどの一般業務を簡便化し、1階では学生が自分1人で貸出手続きすることが可能となった。また業務委託により人員配備を強化した。

これにより貸し出しなどの通常業務の軽減を行うと共に、レファレンス・カウンターを設置し、⑤図書館職員のコンシェルジュ的役割の転換を目指している。

また、かねて学生から要望のあった開館時間の延長（9:00～20:30）と、開館期間の延長（58日間延長）を行った。

上野毛図書館は、ラボラトリースペースやギャラリーなど設けていないが、リザーブドブックシェルフやマイページ機能を有する図書館システムを利用することが出来る。

Ⅱ-八. 図書館および図書・電子媒体等

上記「a. 基本的整備－図書館施設」で述べたハード面での充実と共に、「学びの場」及び「情報発信の場」としての機能が充実したことは高く評価出来る。受動型から提案型のシステム転換により学生の知的好奇心を誘発し、それに伴う利用欲求の高まりに対応する開館時間・期間延長を行ったことも効果を上げる措置と評価出来る。

d. 地域開放の状況

従来から、八王子市・世田谷区など地域住民より希望があればその都度、館内閲覧等を認めて来たが、八王子図書館は2002年4月に相模原市と提携し図書館の相互利用を開始した。2007年7月より八王子市及び近隣の相模原市、町田市、多摩市の4市をはじめ20歳以上の市民は原則、紹介状等が無くとも、館内利用が可能となった（映像資料、有料データベースを除く）。登録すれば1年間有効の図書館利用証を発行する（登録料年間1,000円）。

上野毛図書館についても、現在世田谷区教育委員会との間で世田谷区民の大学図書館利用の計画が進行中である。

（2）学術情報へのアクセス：◎

適用	記述に係る主要点検・評価項目
大学・学部	B群：学術情報の処理・提供システムの整備状況、 国内外の他大学との協力の状況

学術情報処理・提供システムを整備し、学生・教職員が必要とする学術情報への機能的アクセスを可能にし、他大学との協力を通じて、広く世界にも情報を提供することを目標としている。

学術情報システムについては、新図書館建設を機に、2006年10月に国立情報学研究所（NII）のNACSISについて利用申請を行い承認され、12月に接続した。

NACSISの利用については、まだ緒についたところなので情報を受ける立場だが、相互協力の原則があるので、2～3年先にはデータ提供を行うことになる。

NACSIS-ILL（Inter-Library Loan 図書館間相互利用）は現在準備段階にあり、近いうちの利用を目指している。現在はカウンターで申込み、WEB-CATで図書館員が検索し、FAXで大学間の相互利用という従来の形で行っている。

学術情報の処理・提供システムの整備状況は、本学図書館OPAC用の端末が八王子図書館に17台、上野毛図書館に2台あり、両図書館の蔵書検索及び特殊文庫のデータが検索出来る。OPAC及びWEB-CATへは、学内外にある他のコンピュータからのアクセスも可能である。OPAC検索画面からNACSIS画面へのログイン接続は準備段階にある。

国内外の他大学との協力の状況については、昨年度で図書の相互貸出は数件にとどまり、

Ⅱ-八. 図書館および図書・電子媒体等

複写依頼受付が 57 件、他大学への複写申込が 3 件であった。

他方、学内のデータベースの状況（図書館設置以外も含む）は、1995 年から 2003 年まで美術館で行われたミニ・プリント・トリエンナーレ展のデータや、1999 年度以降、大学院美術研究科博士前期課程（修士）の修士論文・修了作品のデータベースが公開されており、特殊文庫（瀧口修造文庫、北園克衛文庫など）のウェブ・コンテンツの公開などが行われている。

「学びの場」及び「情報発信の場」としての図書館においては、学術情報の処理・提供は重要であると考えている。一層の促進を図る改善方策として、2008 年 1 月より美術・デザイン・建築分野の資料検索が可能な契約データベースを導入した。データベースの内容は次のとおりである（表Ⅱ-八-1 参照）。

データベース名	内 容
ABM: ART bibliographies Modern	19 世紀以降の近現代美術の雑誌記事、図書、展覧会カタログ等のデータベース。
BHA: Bibliographies of the History of Art	美術史に関する幅広い分野の図書、雑誌記事、展覧会カタログ等の書誌データベース。英語またはフランス語の抄録付き。
DAAI: Design and Applied Arts Index	デザイン、工芸、建築分野の記事索引データベース。

（表Ⅱ-八-1 契約データベースの概要）

Ⅱ一八. 図書館および図書・電子媒体等